

厚生労働大臣メッセージ

今年で76回目を迎える赤い羽根共同募金運動が、本日から始まります。

この運動は、昭和22年に開始されて以来、国民の皆様の温かい助け合いの思いによって支えられ、我が国の地域福祉の発展に大きな役割を果たしてきました。

我が国では、近年、人口の減少、家族構成や地域社会の変化等を背景とし、更には、新型コロナウイルス感染症による影響もあり、社会的な孤独や孤立、生活困窮など、地域における支援のニーズは、今まで以上に複雑化・多様化しています。

このため、地域の住民や多様な主体が支え合い、地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現が強く求められています。

日本の募金運動の草分けとして、寄附文化を育み、住民が相互に支え合う地域づくりの原動力となってきた赤い羽根共同募金運動が、今後も力強く展開され、支援を待つ多くの方々の支えとなることを心から願っています。

本年も、多くの皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

令和4年10月1日

厚生労働大臣

加藤勝信